

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

季刊リカバリーアイランド沖縄 [無料]
Vol.008

特集◎

MY OWN RECOVERY ROAD

回復を目指す仲間たちに「希望」をこめて

依存症治療最前線

「精神作用物質依存と
他の精神疾患の併存について」

医療法人晴明会 糸満晴明病院
精神科医 入野 康

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

RECOVERY island okinawa Vol.8

2015 Ryukyu-gaia MOOK

Art direction: Takashi Yonamine

リカバリーアイランド沖縄は、
依存症から回復したいと願う人たちに、
“希望”のメッセージと様々な“選択肢”で
「あなた」を応援する季刊誌です。

巻頭特集◎

- 03 **MY OWN RECOVERY ROAD**
～回復を目指す仲間たちに「希望」をこめて～
- 06 **全ての人に回復のチャンスを・・・**
琉球GAIA代表理事 鈴木 文一
- 08 **依存症治療最前線**
[精神作用物質と他の精神疾患の併存について]
文＝医療福祉法人 晴明会 糸満晴明病院 入野 康先生
- 10 **琉球GAIAの家族支援プログラム**
東京と大阪、沖縄で依存症のご家族を対象とした家族会のご案内
琉球GAIAをご支援くださる皆様方へメッセージ

表紙写真【ガジュマル】

沖縄では県木のデイゴと共に昔から親しまれている、太い幹と卵型の光沢のある葉っぱが特徴的なクワ科の植物です。

「ガジュマル」は沖縄の地方名で、伝承ではガジュマルの古木には真っ赤な髪の子どもの姿をした「キジムナー」という精霊が棲むといわれています。

また精霊「キジムナー」は多くの幸せをもたらすことから「多幸の木」ともいわれて大切にされています。



～回復を目指す仲間たちに「希望」をこめて～
MY OWN RECOVERY ROAD

文◎ 与那嶺卓 写真◎ 上田裕司

これまでの特集「リハビリ施設の中、全部見せませす」ではGAIAでの基本的な一日の流れを紹介しました。これは依存症リハビリ施設の暗くて怖いイメージを払拭してもらい、より多くの今苦しんでいる仲間が回復に向けて前向きになってほしいとの願いがありました。

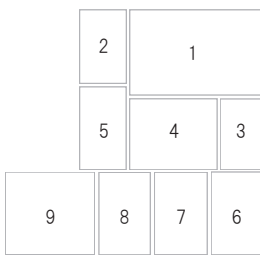
そして、前号の「回復の履歴書 Recovery history」では、回復の段階を「前期」「中期」「後期」の3つに分けて、嫌々繋がって来た仲間の「前期」と「中期」にスポットをあて、入寮生活の中でおこる葛藤や心情の変化を紹介しました。

下のスナップにあるような安全で守られたりハビリ環境の下、自分の人間関係や考え方の「昔の悪い癖」に気付き、改善していくことが、その後に続く社会生活に移行していく時にとても重要になります。

今回の特集「回復を目指す仲間たちに希望をこめて・・・」では、一人の仲間の「回復後期」から「現在」までを紹介します。彼も薬物のせいでも多くの人、何より自分自身を傷つけてきました。しかし、今は違います。

彼らの「足跡」が一人でも多くの仲間の希望になることが出来れば幸いです。

1：大自然のリズムと共に時を刻む。時に優しく、時に厳しく・・・今日も沖縄の海は「回復」を示している。
 2、3、4：プログラムに使う大切な道具達「道具」と書いて「なかま」と読む。
 5：心静かにパワースポット巡り・本島南部 せいふぁ御嶽。6：美味しい食事は皆の笑顔と回復の源。7：日々の生活をリズムカルに変えてくれる「朝の掃除」8：浜辺で焼けるような日射しを目一杯感じる。そう、ここは沖縄。9：依存症について学ぶことは「病氣を知ること」如いては「自分を知ること」につながっていく。



取材協力=LOCKER FOR CAGERS





回復を目指す仲間たちに「希望」をこめて・・・

MY OWN RECOVERY ROAD

琉球GAIAを利用された方々の、回復の過程を紹介する特別企画 第2弾！
施設を退寮して社会復帰を果たした仲間の「足跡」を紹介します。

話し◎S君 30代男性 入寮期間：2010年12月～2012年2月(1年3ヶ月)
写真・文◎与那嶺 卓(琉球GAIAスタッフ)
協力=LOCKER FOR CAGERS



【回復後期】

薬物依存症からの回復は3つの段階に分けて捉えることができます。一つ目【回復初期】は特に薬物の渴望が強いので衝動的な行動に注意が必要です。二つ目【回復中期】は「もう回復した」という油断から、就労を焦り、治療的な環境から離れてしまう時期です。この時期をどう乗り越えるかが非常に重要です。三つ目【回復後期】に入ると薬物の問題が遥か遠い昔のように感じられますが、油断は禁物です。規則正しいバランスのとれた生活を心がけ、自助グループに積極的に参加することが重要です。

「もう依存症は治った！」という勘違いです。「回復し続ける」という言葉があるように依存症にとって完全な治癒は無いとされています。医学的にも長年の依存行為によって、脳内に変化が生じ、そこは依存行為が止まっても完全に元に戻ることはいくらもありません。

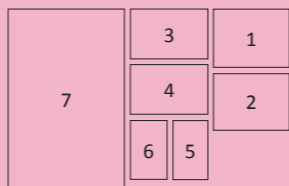
しかし、治療法が全く無いわけではありませんが、後述する日々の規則正しい生活や、リハビリプログラムによって、病後(依存症)の進行を食い止めること、その後の「回復」は可能となります。

S君もガイア入寮時から続けていた「12ステッププログラム」を現在も続けています。ジムにも定期的に通い、趣味のバスケットボールでも地域のチームに所属し中心メンバーとしてがんばっています。

また、金銭面でも完全に自立するために、ガイアと相談しながら計画性を持って生活しているそうです。

やはり回復には「心身のリハビリを継続すること」が重要です。

【現在】 【回復後期】



1日々の積み重ねの大切さを知ることが出来たゴルフ場でのアルバイト。2沖縄の伝統行事「ハーリー」に参加した時の一コマ。3,4,5新しい職場での様子。自立(回復)へ向けて歩み続ける。6家族との触れ合い。クリーンでいれたからこそ感じる幸せ。7彼の背中にはもうポロポロだった過去を感じる事はできない。

【入寮中】



1,2那覇市近郊にある琉球GAIA 洗々つながった仲間もいつしか心休まる「場所」になっていく。3仲間と共に流す汗。忘れかけていた何かが蘇ってくる。4何事にも全力で取り組んできた。成功しても失敗しても全てが未来への「糧」になる。5北部合宿での一コマ・彼らがいたから今までやって来れたし、これからも歩み続けることが出来る。6全てを包み込むような沖縄の青い海。7獲れたものをすぐ食べる。自然豊かな沖縄だから出来ること。

前回は入寮中の仲間のガイアでの生活の様子を紹介しました。今回は、ガイアを退寮して社会で頑張っている仲間の「足跡」を紹介します。

【質問 与那嶺 以降Y】

ガイアに入寮したきっかけを教えてください。

【S君】今から5年前、覚せい剤で逮捕されたのがきっかけでした。執行猶予で出て来たけど代表の鈴木さんとの約束もすっぴかして覚せい剤を買いに行くなんでかなりひどかったですね。結局、沖縄行かないと逮捕されると聞いて洗々ガイアに入寮しました。

【Y】入寮時の生活の様子は？

【S君】帰りたくて仕方なかったですよ！どうにかして東京に帰ろうと毎日考えていました。勝手に転居届出そうとしたけど、戻ったら逮捕されると知ってあきらめました。保護観察所の人に頑張っていたら必ず明るい未来はあるよ。と言われたことが忘れられないですね。その時に沖縄で頑張ろうと決めました。ジムに行ったり、海に行ったり、あと野球もしたりとよく体を動かしました。ステップもはじめて今でも続けています。

【Y】通所になって生活は変わりましたか？

【S君】結局1年3カ月入寮していました。退寮間近になると野菜詰め等の簡単なバイトを始めました。でも自分がステップアップできたなと感じたのは、ゴルフ場で働いていた時です。冬は寒いし、夏は朝の4時に起きて職場まで行かないといけないし、草刈りや木の伐採など今までやった事の無い屋外での力仕事でかなり大変でした。

【Y】ステップアップとは具体的に言うって？

【S君】しっかり仕事に行けたことはもちろんですが人間関係の面が大きいですね。職場では仕事のことや人付き合いのことなど沢山の事を教わる事が出来ました。同僚とのトラブルもあり、かなり辛い思いもしましたが、今では本当に感謝しています。僕は結構ネガティブな考え方をする傾向があったのですが、相手の良い面だけを見たりとポジティブに考えるようにしています。ゴルフ場では約3年働きましたが、いい勉強になりました。

【Y】クリーンを守るために取り組んでいることは？

【S君】バイトなどで社会に出ると、入寮時とは違うストレスがけっこうあるので、なるべくストレスを溜めないようにしています。入寮中から続けているジムに通ったり、社会人バスケのチームで汗をかいたり健康的なストレス解消を心がけています。あと、NAにも定期的には行くようにしてるし、スポンサーともまめに話すようにしています。

【Y】今後のビジョンは？

【S君】3月から新しい職場で正社員で働くことになりました。趣味でもあるバスケの専門店です。知り合いから話があったのですが、その時はクリーンでやって来てよかったと実感しましたね。それに、まだ親から多少の援助をしてもらっているんで今回のステップアップが自立へ向けた新しい一歩になればいいと思います。

最後に、これまで自分一人の力だけではやってこれなかっただろうし、これからは仲間が近くにいるからやって行けるだろうなとおもいます。仕事も趣味も仲間もバランスよく、「あせらず、ゆつくりやって行こう」の言葉を忘れずにやっていきたいと思っています。

【インタビュー 2015年2月】

インタビュー後記

今回S君にインタビューを頼んだのは、順調に回復の道を歩んでいるのは勿論だが、その朗らかな人柄に惹かれたからだ。いつも笑顔で人に接するS君には、もう薬物でポロポロだった過去を感じることはできない。本土から沖縄、入寮生活、通所を経て社会へ出た過程には、大変な苦労があっただろう。しかし、自分のコツコツと積み重ねてきた回復の道のり

「MY OWN RECOVERY ROAD」を楽しんでいるようにすら感じる。

インタビュー中に出てきたS君の

「昔の生活には戻りたくないので、そりや用心しますよ。」
という言葉に「回復し続けるヒント」がそこそこあった。

桜前線が足早に北上し、花の便りが聞かれるようになりました。皆様におかれましては、気持ち新たにご活躍のことと存じます。また、新年度がスタートするこの季節は、家族を持つ仲間の子供たちの卒業や入学の便りが年々増え、嬉しい季節でもあります。

ここ沖縄は、早くも初夏を感じさせる季節になり、琉球GAIA(以下GAIA)の仲間たちも、Tシャツ、短パンの姿が目立つようになりました。GAIAのスポーツプログラムも盛んになり、有志が集まってフットサルのチームを作り、通常のプログラム終了後に練習したり、定期的に試合をしたりと盛り上がっています。

前回のリカバリーアイランド沖縄の中で危険ドラッグや処方薬乱用について、特集を組みましたが、ここ最近の傾向としては、全国的に危険ドラッグの取締規制が厳しくなってきたこともあり、危険ドラッグの相談件数は減少してきています。ただ、処方薬乱用については未だ相談件数の3割を占めるほど深刻な状況が続いています。

私自身、日々依存症相談を受けていて感じることは、後遺症や精神疾患を患った仲間が、近年非常に増加傾向にあること、それに反して安全な居場所(前述に対応したりハビリ施設等)が少ないということです。また以前からGAIAが抱える課題として、そうした仲間達に対してどのような形でサポートしていくことが効果的なのか?ということが挙げられます。

現在は囑託医である「かいクリニック」の稲田隆司先生をはじめ糸満晴明病院の諸先生方と綿密な連携を取りながらサポートを行っていますが、上記のような問題を抱えた仲間たちへの、より良いケアの実現には、スタッフのスキルアップは勿論のこと、今まで以上に専門家の方々との連携が不可欠だと感じています。

そうした中で、今回のサブタイトルである「依存症治療最前線」のコーナーで、糸満晴明病院の入野先生に寄稿をお願いし、薬物による後遺症や精神疾患を患っている仲間に対してのサポートについて言及して頂きました。

入野先生のメッセージにもありますように、回復には「居場所」が確保されることが何よりも重要となります。その回復の拠点となる「居場所」が確保され、その居場所の中で「所属感」を持ち、仲間の中で「許される・認められる」体験を得て、その人のペースでなにか物事に「チャレンジ」し、そのチャレンジが「成就」する「成功体験」が回復には欠かせない必要材料となってきます。

GAIAでは後遺症や精神疾患を患った仲間たちに対しても、安心できる「居場所」を提供できるように、今まで以上に多くの援助職者の方々と連携を深め、一人ひとりの状態により一層付き添える環境を整えていく事が急務だと考えています。それが私たちGAIAの理念である「どのような問題を抱えている薬物依存症者にも回復のチャンスはある」を実現するため

に必要なことだと確信しています。

この冊子を手にとっておられる熱心な読者の皆様におかれましては「依存症からの回復は可能」ということを心から感じてもらうために、是非【家族会】にご参加頂き一人でも多くの回復した仲間、ご家族と出会って頂きたいと思えます。

また、今年は新しい取り組みとして、8月1日に東京GAIA家族会・会場の「すみだ産業会館」にて「家族の為の一日集中セミナー」を企画しております。

埼玉精神医療センターの成瀬暢也先生と新潟医療福祉大学の近藤あゆみ先生をお呼びして、皆様と共に充実した実りある内容にしたいと考えております。日頃、ご多忙で家族会への参加が叶わない方々や、遠方で毎月参加することが難しい方々にも満足して頂けるような内容となっておりますので、是非ご参加頂ければと思います。

詳細につきましては近日中にGAIAホームページ上にて告知させていただきますので、サイト内の「日々の生活のブログ」と併せてご覧いただけますようお願い致します。

そして、私たちの理念である「どんな薬物依存症者にも回復のチャンスは必ずある」を今後より一層実現していくために、これからもこの紙面を通じて回復の島・沖縄から希望のメッセージを発信し続けていきたいと思えます。

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

全ての人に回復のチャンスを・・・

アルコール・薬物依存症リハビリセンター
琉球GAIA 代表理事 鈴木文一



Profile

鈴木文一 (すずき ふみかず)
特定非営利活動法人
アルコール・薬物依存症リハビリセンター
琉球GAIA 代表理事
1965年東京生まれ
1991年東京DARCスタッフ
1993年東京DARC施設長
2002年沖縄に琉球GAIAを設立

Let`s start your recovery life with Gaia



R Y U K Y U
GAIA

Summer is coming to Okinawa!!
Let`s start your new recovery life with new friends.

Here we go! Let's go on a journey!

mail@ryukyu-gaia.jp |

1102-16 AZASHIKINA NAHA OKINAWA
TEL 098-831-2174 FAX 098-851-3535

| www.ryukyu-gaia.jp

The Most Advanced Addiction Treatment

依存症治療最前線

精神作用物質依存と他の精神疾患の併存について

医療法人晴明会 糸満晴明病院

精神科医 入野 康

はじめに

精神作用物質依存(以下薬物依存と略)とその他の精神障害の併存について説明していきます。薬物依存の患者は他の精神障害を有していることが多いのですが、そもそも薬物依存に先行して他の精神障害が存在する場合(例えば一次性うつ病と二次性の薬物依存症)と薬物依存症発症後ないしは離脱期に続発して生じる場合(例えば一次性薬物依存症と二次性うつ病)があります。精神科受診時には精神及び身体の診察と共に、生活歴、家族歴、性格傾向、教育歴、薬物使用歴、ライフイベントを事細かに聴取するのが常ですがそれは精神科診断において併存症を見逃し治療が難渋することを避けるためには不可欠だからです。

自己治療としての薬物摂取

薬物依存症に陥る過程においては所謂診断基準を満たす併存精神障害を有するか否かに拘わらず、精神作用物質を『生きづらさ』に対して自己治療的に用いることが度々見受けられます。『日常性への埋没の恐怖』、『孤独』、『死の恐怖』等人生の中で直面する課題を含めるとかなり多くの場合その難題に対する安易な自己治療的行為としての薬物摂取がその入り口となります。19世紀のフランスの詩人のボードレールは『酔いたまえ』という詩を書いています。その一部を以下に抜粋します。



【ボードレール】1821～1867
フランス出身 詩人 美術評論家

『つねに酔っていなければならない。全てはそこにある。それこそ唯一の問題なのだ。君の両肩を砕き、君を地面の方へ傾けさせる『時』の重荷を感じずにいる為には休みなく酔っていなければならない。では何で酔うのか？ワインでも、詩でも、勇気でも、君の好きなもので酔うのがよい。とにかく酔いたまえ。』

(後半省略)

どのような印象をもたれるでしょうか？何かに没頭していないと生きづらさを感じてしまうことに対して共感できる人もいれば、共感が困難な方もいらっしゃるでしょう。ボードレール自身も人生に苦悩し、その後は『詩』に酔い、或いは、『詩』で人々を酔わせることで自己治療していったのでしょうか。

薬物依存からの回復過程

ボードレールのように人生は酔って続けなければ生きるのが苦しいという状態に陥っていたとして、『ワイン』ではなく『詩』『運動』『音楽』などの活動や『愛』等の対人関係にその活路を見出していくのも回復の一段階とみてよいでしょう。他より社会に適応的な行動・人間関係等に『依存』(これは医学的な意味での使用ではなくて熱中と置き換えてもよいですが)することなく薬物依存からの回復過程を歩み始める場合もありますが、そのようなステップを入れることにより回復への道筋が見つかる方も大勢いらっしゃることも事実です。依存症治療は『どのように生きるか』という医療の枠を超えた論点と向き合う必要性がある場合も多く自助グループの重要性の一端もこのあたりにあるのでしょうか。

併存障害の種類

さて、精神障害の診断基準を満たすような併存障害についてですが、摂取薬物によりその特徴も異なります。薬物の脳に対する化学的作用、使用物質が合法か違法か、物質が占める文化的社会的的位置等が併存障害の特徴にも影響しますが、今回は細かい相違には立ち入らず、ライフステージに沿って問題がたちあられやすい精神障害を順にみていきましょう。

～思春期～

知的障害や社会コミュニケーション障害、注意欠陥多動性障害等神経発達障害の障害が挙げられます。精神発達の遅れや偏りが顕著な場合には集団生活への適応が悪く本人に合った環境で自己効力感が高まるような生活を送れないと自信のなさに繋がり不登校・非行となることが多く見受けられます。幼少期より知的障害・発達障害の存在が明らかで支援学級等で適切に援助を受けていると比較的良いのですが、障害が周囲に把握されずに『変わった子』、『ドジな子』という認識をもたれ、社会からの疎外感を早期に味わうと依存症のリスクを高めます。このような場合『居場所』の確保及び自己効力感の向上が要諦となります。また、思春期の女子に比較的多い摂食障害、思春期終了頃までに確立すべき人格の偏倚である人格障害も周囲とのトラブル等社会での生きづらさが薬物依存を惹起する危険を孕んでいます。



～思春期・青年期・壮年期～

この年代では気分障害(大うつ病、気分変調症)、不安障害(パニック障害、不安障害等)、身体表現性障害、更には統合失調症など様々な精神障害をきたします。これらは依存症が一次性である場合もあれば二次性の時もあります。ここではそのなかでもうつ病と統合失調症についてみていきます。

うつ病は抑うつ気分と興味と喜びの喪失がその中核をなす状態です。薬物依存、うつ状態、自殺は『魔のトライアングル』と言え合併の危険は極めて高く精神科医療ではこのうちひとつを主訴に受診された患者さんには残り二つの可能性はないか必ず評価を行います。また自殺完遂者の多くは自殺企図時アルコール摂取後であることがわかっています。

統合失調症とは『自我』-自分自身という概念-が揺らぎ思考と知覚に異常をきたし、周囲から嫌がらせを受けているといった被害妄想やそれが高じて幻聴を主とした幻覚を来すこともある精神障害です。被害妄想や幻聴を緩和する手段として薬物摂取が行われ依存症になる例も多く見受けられます。一方で、ある種の精神作用物質の使用・乱用は精神病を惹起する可能性が高いとの報告もあります。

～壮年期・熟年期・老年期～

長期の精神作用物質使用は脳に器質的変化をもたらします。有機溶剤、アルコール等の長期過剰摂取は広範な脳萎縮をきたします。またアルコール依存症は健忘症候群という短期記憶が極端に障害された状態を来すことがあります。また飲酒により転倒を繰り返し外傷から頭蓋内の出血をきたすことによって生じる慢性硬膜下血腫はその程度により外科的手術の適応にもなります。

～併存障害の治療～

治療に関しては先ず依存物質を断ちその影響を排除することが大前提です。重症な精神科合併症がある場合には並行して薬物療法(抗精神病薬・抗うつ薬等:但しベンゾジアゼピン等の抗不安薬・睡眠薬は処方薬依存というまぎれもない医源性の処方薬依存をつくってしまうので注意が必要です)・精神療法・作業療法を主とした治療を行います。しかしこのような合併症を有する依存症者の多くは、その合併精神障害の精神症状の為、精神作用物質使用中止を維持できず、また薬物摂取により精神症状悪化をきたすという悪循環を形成しやすく、薬物依存、精神科合併症ともに治療を困難なものにさせています。

精神科における治療は多岐に渡ります。先に述べたように幼少期・思春期より問題となる精神障害では、環境調整による居場所の確保が重要となります。幻覚・妄想等精神病性症状が悪化し、その内的体験に著しく言動が左右されている場合や死にたいという気持ちが高まっている場合には、強制的な入院も検討の対象となります。また、最後に挙げた慢性硬膜下血腫のように脳外科に紹介し



眼下には平和祈念公園と太平洋が広がっている。(糸満晴明病院 南病棟から撮影)

おわりに

GAIAをはじめとした自助グループ施設入所中のメンバーに関して当院入院の相談が寄せられる多くは、神経発達障害や幻覚・妄想等精神病性症状を有したメンバーの方です。薬物依存症に他の精神障害を併存すると2重の苦しみを背負っている状況となった方々です(或いはポジティブに捉えるとチャレンジを課されているといってもよいかもしれません)。自助グループにおける生活、回復プログラム、サーフィンやゴルフを中心としたスポーツ活動を通じ『居場所』が確保され『生きづらさ』が少しでも低減されることが望まれますが症状に応じ精神科医療の役割も増す局面が出てこざるを得ません。依存症治療の中で医療機関が果たす役割には限りがありますが今後とも宜しくお願い致します。



文=入野 康
text by Kōji Iri no
写真=与那嶺 卓
photo by Yonamine Takashi

琉球GAIAをご支援くださる皆様方へ

4月を迎え、ここ沖縄では日本一早い海開きや浜下りなど夏の足音が聞こえてくるようです。GAIAの仲間たちも待ちに待った夏の訪れを楽しみにしています。

毎年、暖かくなるにつれて相談件数も増加し、様々なタイプの利用者への対応が必要になってきます。今回糸満晴明病院の入野先生に寄稿して頂いた「併存障害」をもつ利用者も最近増加傾向で、その効果的な援助が急務となっています。

それこそ100人いれば100通りの「回復・個性」が存在し、100通りの「対応」が求められます。

それにはスタッフ自身のスキルアップは勿論ですが、何より医療機関や地域の相談窓口、他のリハビリ施設との連携をより強め、きめ細やかなサービスを提供出来るよう心がけていきたいと考えております。

財政面におきましては、様々な限界もあり理想だけを追い求めることはできないという苦しい現状もありますが、今後も努力を惜みず、精一杯頑張りますので、なにとぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。

琉球GAIAの活動にご賛同、ご支援頂きますれば、誠にお手数ながら同封しております振替依頼用紙にて献金のご協力を願ひ申し上げます。また、今後振込方法の簡素化を計画しております。詳しい説明は家族会やホームページ上にて順次行ってまいりますのでよろしくお願い致します。

なお、献金の振込用紙は全ての方に同封させて頂いており、寄付献金を強要しているものではないことをご理解ください。

琉球GAIA 職員一同

献金お振込先 郵便振替 □座番号:01710-2-48714 □座名:琉球GAIA

【イベント告知】ご家族の為の一日集中セミナーのご案内

One Day Intensive Seminar

来る平成27年8月1日 東京都内にて、依存症の問題を抱えた子を持つご家族の方々を対象とした「ご家族の為の一日集中セミナー」を開催致します。普段ご多忙で家族会に参加することが難しい方々や、集中的にリハビリプログラムを習得したい方々に最適な構成となっております。

ゲストには依存症リハビリにおいて、非常に高名な埼玉精神医療センター 成瀬暢也先生 新潟医療福祉大学 近藤あゆみ先生のお二方をお招きして講話を予定しております。

また、琉球GAIAよりスタッフ数名も参加し、依存症リハビリの臨床についてお話しさせていただきます。

会場案内

日時：平成27年8月1日 10：00～16：00

会場：すみだ産業会館 〒130-0022 東京都墨田区江東橋3丁目9番10号

※（開催時間・内容につきましては暫定とし、正式に決まり次第、ブログを通じてお知らせ致します）

琉球GAIAの家族支援プログラム

Family support

文=鈴木文一
text by Fumikazu Suzuki

薬物依存症の治療や回復には、ご家族の果たす役割が非常に大きいという事が実証されています。

琉球GAIAでは「ご家族と共に回復する」と言う考えの元、ご家族の方にも「家族支援プログラム」の参加を強くお奨めしております。依存症と言う病気をよく理解出来るようになる事。ご本人に対する適切な対応や、コミュニケーションを行えるようになる事。依存症から回復出来るという事をご家族が信じられる事を大きなテーマにしています。また、家族会のグループがオープンである事、他の援助者や、治療機関と連携が取れている事も大切にしている事の一つです。グループに参加することで、ご家族に笑顔が戻り、本人同様、ご家族自身が仲間と出会い、回復を支援する為に必要な知識や情報を共有できる場所となるよう心がけております。

グループで学んだ事を実際の生活に活かせるようになるには、個別支援も必要になります。個別のカウンセリングを通して個々の問題を整理しながらグループに参加して頂けると、教育プログラムの効果が最大限に発揮されると考えております。

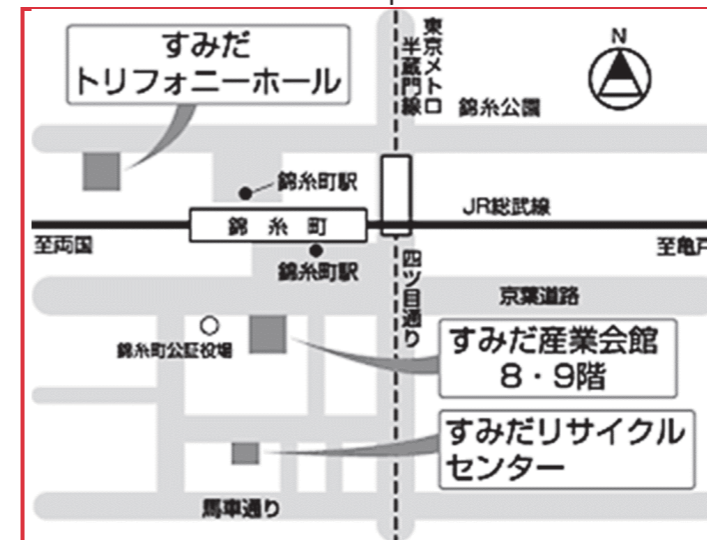
また緊急時の対応に関しましては出来る限りのサポートをさせていただきます。

琉球GAIAをご本人様が利用する、しないにかかわらず下記の家族会にはご参加頂けますので是非ご参加ください。

address

GAIA家族会 会場：すみだ産業会館8・9階
〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-9-10 TEL:03 (3635) 4351
東京家族会とハイビスカスは、会場も開催日時も異なりますのでご注意ください。

map



information

依存症の問題を抱えた多くのご家族、琉球GAIAのスタッフ、OB、専門家を迎えてのセミナーなど、依存症に悩むご家族の方々にとって非常に内容の充実した家族会となっております。毎回40名ほどのご家族が参加されておりますが、初めてお越しの方でも参加しやすいようなアットホームな雰囲気作りを心がけています。

すみだ産業会館にて毎月第2土曜日の18時～20時30分のスケジュールで開催しております。参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡ください。琉球GAIA：098-831-2174

GAIA家族会

TOKYO

「ハイビスカス」は薬物依存症や様々な問題を抱えた娘を持つ母親を中心にしたグループです。娘とのかかわり方、対応の仕方をテーマにミーティングや勉強会を行っています。一人で悩まずに、同じ問題に取り組んでいる仲間たちと一緒に体験や気持ちを分かち合ったり対応の仕方について勉強しませんか？ ご参加お待ちしております。

場所：東京都港区芝1-8-23 障害者福祉センター
日時：毎月第1土曜日（祝祭日は休み）
17時～20時30分（無料）
参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。琉球GAIA：098-831-2174

ハイビスカス

TOKYO

沖縄家族会

OKINAWA

沖縄県内の依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。琉球GAIAスタッフが中心となり、ご家族の方からの質問や、本人とのかかわりについて具体的に提案する形で行っております。

場所：沖縄県立総合精神保健福祉センター2F

日時：毎月第2第4月曜日（祝祭日は休み）

19時～20時（無料）

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

関西圏で依存症の問題を抱えたご家族の為の家族会です。元・琉球GAIAスタッフの村上を中心として、毎月専門的な講話や家族間での話し合いなど、充実した内容の家族会となっております。ご参加お待ちしております。

場所：兵庫県尼崎市南塚口町1-5-13

美容院ルーナロッサビル3F

日時：毎月第3金曜日の14時～16時

参加希望の方は琉球GAIAまでご連絡下さい。

琉球GAIA：098-831-2174

大阪家族会

OSAKA

Keep Paddling... with you

アルコール・薬物・ギャンブル依存症に関する無料相談は琉球ガイアまで

 www.facebook.com/ryukyugaia

RYUKYUGAIA

RECOVERY

ISLAND OKINAWA

2015年 4月 1日発行

発行|特定非営利活動法人アルコール・薬物依存症

リハビリセンター琉球GAIA

沖縄県那覇市字識名1102-16 〒902-0078

TEL:098-831-2174 FAX:098-831-7174

MAIL:mail@ryukyu-gaia.jp

薬物・アルコール依存症リハビリセンター琉球GAIA

【GAIA東日本相談センター】

 **03-5800-5151**

【GAIA西日本相談センター】

 **06-6433-5111**

【沖縄ケアセンター琉球GAIA】

 **098-831-2174**

フリーペーパー(無料)です、ご自由にお持ち帰りください。